他 山 の 石 (29)

磐 瀬 太 郎[1)]

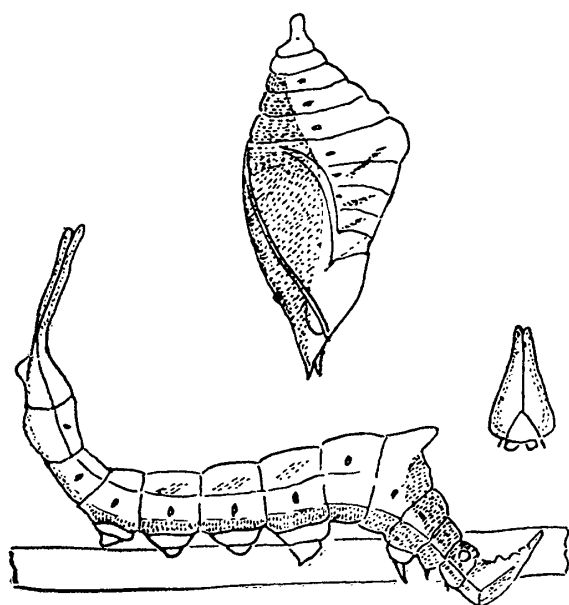
Lessons from Here and There (29)

By Taro Iwase

(29) ***Agrias* ミイロタテハの生活史** ： 王者の血統と称せられるミイロタテハは，アマゾン河の流域に本拠を持ち，南アメリカの昆虫相中，赤道密林 Equatorial Selvas のチョウで，カリブ海系のギアナや，ブラジル高地系のブラジル南部にも拡がっているが，純アンデス高山系やラプラタ草原系の地方には分布しない。中央アメリカのメキシコ最南部 Chiapas に1種いるとの記録もあるが，詳かにしない。

Agrias, a montage

生活史の記録はきわめて少く，Seitz のアメリカ篇（1916, Fruhstorfer）と，W. Müller の南米のタテハチョウ科幼虫の論文（1886）に，ブラジル南部の *A. claudianus* の記事を見るのみである。この種は飼育品から記載されたもので，ザイツ当時まだ野外の成虫記録はなかった。大英博物館にある吹脹標本と，サンタ・カタリナ州 Blumenau で Jul. Scheidemantel 氏の描いた図に基づいた，ザイツ・ミユラー両文献の記事を綜合して紹介しよう。共に近縁の *Prepona* 属との比較で記されて居り，図はない。

卵 ： 円球型，黄白色で鈍く光るが，肉眼で見える彫刻はない。大形でヨーロッパ産のオオクジャクサン *Saturnia pyri* の卵ほどある。卵期8日。プレポナの卵も大きく，*P. extincta* の卵は直径 2.5mm もあり，フクロウチョウ *Caligo* 1種の 2.3mm～2.4mm をしのぐという。

幼虫 ： 概形は竜骨状というと難しいが，船底をひっくりかえした形といえばよく，コムラサキやフタオチョウ幼虫に近い。頭部は胸部より著しく大きく，2本の尖らない角を持つ。前胸には1対の白い紋がある。第4節が最も太く，背上に1個の突起があるが，この節から後方へ段々と低くなる。体は灰緑色で，全体に細かい毛があり，気門は黒色。尾端に非常に長い1対の突起がある。ここに掲げた図はミューラーのプレポナ2種の幼虫図と，以上の記事を基に私のモンタージュしたものである。プレポナ幼虫のとまり方には特長があり，腹脚だけつかって，胸脚，尾脚を離し，1種の擬態的静止法をとる。南アメリカでこの幼虫に出会ったら，ガの幼虫とまちがえない注意が要る。

蛹 ： これもプレポナの蛹によく似ているというので，*P. demophon* の図を変写転載した。色は *P. laertes* では，ミドリ色透明である。頭上に2本の長いかなり尖った突起があり，総じてコムラサキの蛹の形である。

食草 ： 食草については，ザイツもミューラーも何も書いていないが，最近吉田真日出氏から報らせて頂いたところによると，1946年8月 René Lichy は，ベネゼラの奥地，オリノコ河の上流，ネグロス水系 Temi 河畔の

1） 東京都文京区湯島2丁目 30—10

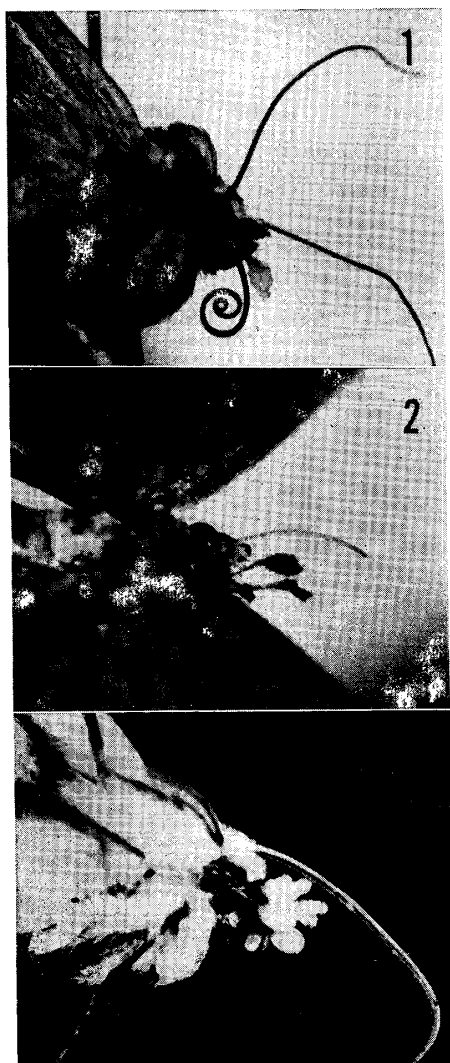
Yavita で，*A. Saldanapalus* が *Erythroxylon* コカ（コカノキ科）に産んだ卵を採集，しばらく飼育した。この植物の葉は麻酔剤コカインの原料ではあるが，薬学専攻の中島暉躬氏によれば，無脊椎動物に対しては毒性がないらしい。EHRLICH 博士の最近の論文によれば，モルホチョウの1種も，コカを食草としている。なお，ベネゼラではザイツ当時ミイロタテハがまだ発見されていなかったが，分布していて当然である。(16/vii. 1965)

（訂正：他山の石（28）の凸版は右が *Actinotes*，左が *Bematistes* の誤り）

花粉塊を付けた蛾類3例

前波鉄也[1)]

The moths bearing pollinia

By TETSUYA MAENAMI

ラン科やガガイモ科の花粉塊が昆虫の頭部や複眼に付着して運搬されることは，国外ではよく知られているようである。ところが日本におけるこのような観察例は非常に少なく，最近やっと数例が報告されたに過ぎない。すなわち，石原（新昆虫10（8）：14—5,1957）はエビネの花粉塊を付けたミツバチで初めてこれを報じ，この花粉塊を「カンザシ」と呼んだ。その後幾瀬・小林（植物研究雑誌 35（5）：138,1960）によって，クビシロノメイガとマエキシタグロノメイガ（共にオオバノトンボソウの花粉塊）およびウスオエダシャク（ミズチドリ？）が報告されている。更に山下・大川・松浦（鈴鹿山脈自然科学調査報告書：160, 1963）のニッポンヒゲナガバチと坂部・池田（昆虫と自然2（1）：38,1967）によるアカテンクチバでのラン科の例が報告されているだけのようである。

筆者は1965年7月26—8日，伊豆諸島の神津島において写真に見るような花粉塊を付けた蛾類を採集したので報告する。

1. *Leucania consanguis* Gn. マメチャイロヨトウ (fig. 1)
   ♂，花粉塊は左右の複眼に各1本付着。
2. *Synegia esther uniformis* INOUE クロハグルマエダシャク (fig. 2)
   ♂，前種同様複眼に各1本の花粉塊を持つ。
3. *Gonodontis arida arida* BUTL. エグリズマエダシャク (fig. 3)
   ♂，左右の複眼に数本ずつ付着しているが標本が紛れてしまい十分観察していない。

以上の3例は全て同島前浜に近い標高約80mの地点で，夜間20W青色螢光灯に飛来したものである。1および2の標本と写真は，東邦大学薬学部の幾瀬マサ先生にお送りし，花粉塊の同定をお願いしている。何れ幾瀬先生により詳しく発表されるものと思うが，3を含めて全てラン科の花粉塊である旨，ご教示頂いている。末筆ながら幾瀬先生に厚くお礼申し上げる。

1）伊東市伊豆シャボテン公園標本館（昆虫）